

令和7(2025)年度

Meio University
Graduate School of Nursing

名桜大学大学院

看護学研究科 看護学専攻

[博士前期課程]

Contents

看護学研究科長あいさつ	P.1
看護学研究科教育理念	P.2
教育課程の概念図	
養成する人材像	P.3
教育目的	
教育目標	
ディプロマ・ポリシー	
カリキュラム・ポリシー	
入学定員、アドミッション・ポリシー	
社会人も学べる教育環境	
修了後の進路	
教育課程	P.4
専門領域の紹介	P.5-6
在学生からのメッセージ「大学院で学ぶ」	P.7-8
大学院で学ぶQ&A	P.9
学費等納入金・施設マップ	P.10
令和7(2025)年度 大学院看護学研究科入学者選抜概要	P.11
名護市内アクセスマップ	



公立大学法人

名桜大学
MEIO UNIVERSITY



名桜大学 基本理念

平和・自由・進歩
名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する
国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

ご挨拶

これからの時代に求められる人材の育成を目指して

本学看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）は、「ケアリング文化に根差した看護教育を探究する教育者および研究者を育成すること」、「地域の看護需要に対応して課題解決のために必要な指導的役割を担う看護実践のリーダーを育成すること」を目指して平成23年度に開設されました。以来61名が本課程を修了され、各方面で精力的に活動されています。また、令和4年度には看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）が開設され、看護学の発展に寄与する深い学識と高度の研究能力を有する教育・研究者の育成環境が整いました。さらに、本研究科では令和6年度にがん看護専門看護師教育課程（CNSコース）の運営を開始し、高度実践看護師の養成に新たな一歩を踏み出しています。



看護学研究科看護学専攻
（博士前期課程）

研究科長

花城 和彦

世界では昨年までの3年と少しの間、新型コロナの感染拡大で大変な状況が続きました。保健・医療・福祉の分野だけではなく様々な社会環境の中で、私たちはこれまでに経験したことのない多くの課題に直面しました。解決策を見出せない状況の中で、誰もが狼狽えながらも必死に困難な状況を乗り越えようとしてきました。このようなパンデミックや災害などの予測困難な状況で必要とされる人材は、正に研究を志す皆さんです。皆さんの課題解決に取り組む決意と専門性を高めそれを活かす能力の獲得は、絶えず変わりゆく動的な時代を乗り越える大きな原動力になると信じます。

本研究科では、教育研究能力や看護実践能力を更に高めたい看護職者に対し、働きながらも研究が遂行できるよう、夜間の授業の開講やICTを活用した遠隔授業、長期履修制度などを導入しています。また、学部教育で看護研究に興味を持った方の卒後ストレートでの入学も歓迎しています。バックグラウンドの違う方々がそれぞれの課題に向き合い、教員や仲間とともに情熱を持って過ごす研究生活は、何ものにも代え難い充実した経験になることでしょう。本研究科は、独自の研究領域を開拓し、看護実践・教育に活かす能力を磨き、予測困難な時代を乗り越えようとする意欲のある方をお待ちしています。

健康長寿社会を支える文化、精神を 看護科学として体系化



沖縄県北部12市町村 医療・保健の課題

- ✳医療機関や療養施設、医療人材の慢性的な不足
- ✳医師不在による産科病棟の休診
- ✳山間へき地の孤立した育児環境
- ✳救急医療や在宅療養資源の不足
- ✳高齢者の介護問題
- ✳生活習慣病の増大
- ✳妊産婦の低い受診率
- ✳心を病む人の増加

問題解決

高度な専門的スキルを持つ看護実践者、
研究者・教育者の育成

名桜大学大学院 看護学研究科

北部地域看護系医療人材育成支援施設(看護学科棟)

ケアリング文化に根ざした看護学の実践的開発は
環太平洋をはじめグローバルな世界へと開かれていく。

博士前期
課程

研究科名 看護学研究科 Graduate School of Nursing
専攻名 看護学専攻 Department of Nursing
学位 修士(看護学) Master of Science in Nursing (MSN)



看護学研究科 教育理念

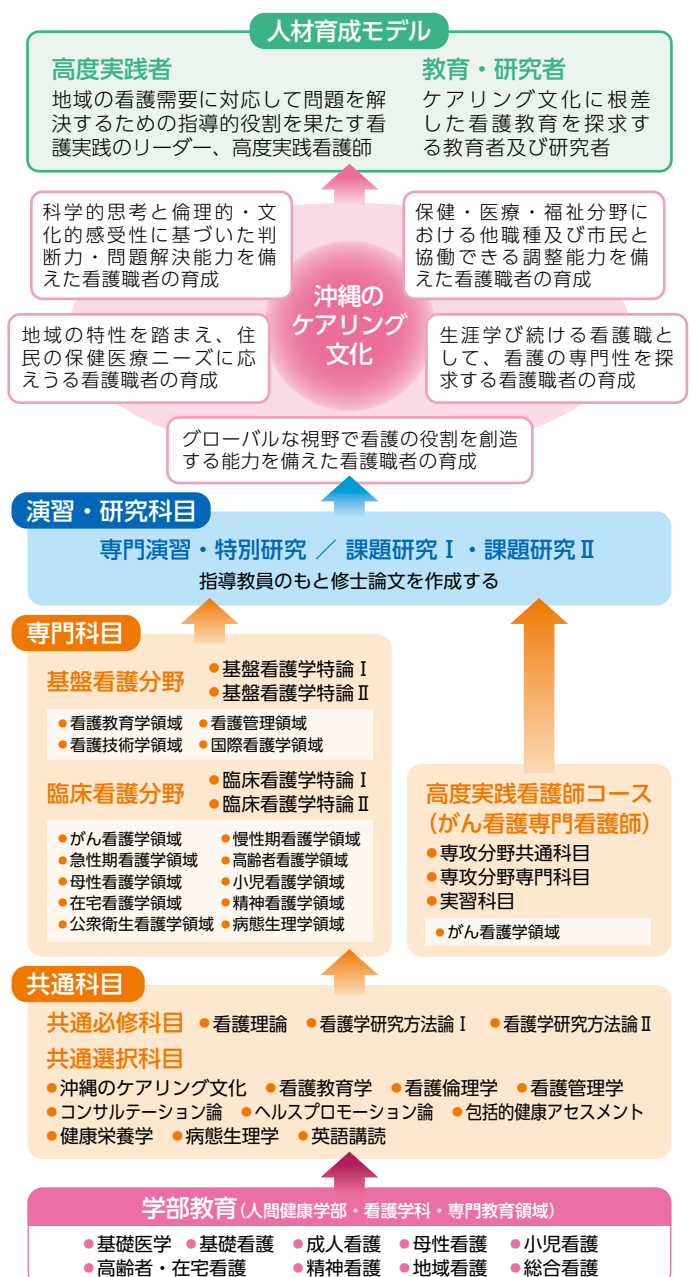
本学は、沖縄県北部12市町村の「公設民営」の大学として設立され、2010年4月、北部広域市町村圏事務組合を設立団体とし、公立大学法人に移行した経緯から、教育・研究の両分野において沖縄県北部地域との連携が重視されています。

北部12市町村は、過疎化、山間へき地、離島を含む広大な地域であり、医療機関や療養施設・医療人材の慢性的な不足、医師不在による産科病棟の休診、妊産婦の低い受診率、山間へき地の孤立した育児環境、生活習慣病の増大、心を病む人の増加、救急医療や在宅療養資源(サービス)の不足など人々の健康を守るには多くの課題を抱えています。一方、長い歴史の中で、「ちむぐる」や「ゆいまー」という沖縄特有の相互扶助の精神が息づいており、恵まれた自然の中で医食同源の生活を送ってきた長寿の人々が多く暮らす地域でもあります。しかしながら、健康長寿社会を支えてきたこれらの地域の歴史や文化が失われつつあり、住み慣れた地域でその人らしい生活を再構築できるように支援するかわりは重要になります。上記の課題を解決・支援できる高度な専門的スキルを持つ看護実践者、教育者・研究者を養成することを目指し、看護学研究科を設置いたしました。

看護学研究科は、名桜大学の建学の精神である「平和・自由・進歩」を踏まえ、生命の尊厳と人権を尊重し、擁護する倫理観と豊かな幅広い人間性を培うとともに、その人がその人らしく生きられるように、沖縄のケアリング文化に根ざしたケアを提供できる看護職者を育成します。

また、保健・医療・福祉を統合的に捉え、社会のニーズに対応し、地域社会および国際社会に貢献しうる実践能力のある健康支援人材を育成することを目標に、沖縄の歴史やケアリング文化を基盤として、地域の健康問題を創造的に解決していく看護実践能力の育成とグローバルな視野で看護の新たな価値の創出を目指した教育・研究能力を育成することを教育理念とします。

教育課程の概念図



養成する人材像

看護学研究科は、地域に根ざし地域の健康問題を創造的に解決していく卓越した看護実践能力の育成と看護現象の解明を目的とした研究能力の開発、看護の新たな価値の創出を目指し、高度実践者及び教育・研究者の養成を目的としています。

(1) 高度実践者の養成

地域の看護需要に対応して問題を解決するための指導的役割を果たす看護実践のリーダーを養成します。

(2) 教育・研究者の養成

ケアリング文化に根ざした看護教育を探究する教育者及び研究者を養成します。

教育目的

名桜大学大学院看護学研究科博士前期課程では、博士前期課程の理念を踏まえ、地域の健康問題を創造的に解決していく専門性の高い看護実践能力と看護の教育、研究能力を有する人材を育成し、保健・医療・福祉の質的充実・向上を目指すことを目的とする。

教育目標

1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた判断力・問題解決能力を備えた看護職者の育成
2. 保健・医療・福祉分野における他職種及び市民と協働できる調整能力を備えた看護職者の育成
3. 地域の特性を踏まえ、住民の保健医療ニーズに応える看護職者の育成
4. 生涯学び続ける看護職として、看護学の専門性を探究する看護職者の育成
5. グローバルな視野で看護の役割を創造する能力を備えた看護職者の育成

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

看護学研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(看護学)の学位を授与します。

- (1) 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力
- (2) 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力
- (3) 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力
- (4) グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

- (1) 看護専門職として実践・研究を遂行するにあたり、基盤となる批判的・論理的思考力を育成するために、共通必修科目と共通選択科目を配置する。
- (2) 看護実践および研究の質の向上に資する専門科目を配置し、志向する専門分野(基盤看護学分野、臨床看護学分野)における看護学の専門性を探究する能力を育成する。
- (3) 研究方法、研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目および論文を作成する研究科目を配置する。
- (4) 修士論文又は特定の課題についての研究の成果について中間評価及び最終試験、論文審査を実施する。

入学定員、アドミッション・ポリシー

1. 入学定員 6名

2. アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

看護学研究科の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

- ① 看護学の発展に向けて、自ら進んで取り組む意欲と探求する姿勢を持っていること。
- ② 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに応えるため、高度な知識、看護実践能力および研究能力の習得を目指していること。
- ③ 看護実践・教育・研究を通して地域社会や国際社会に貢献する意思を持っていること。
- ④ 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有していること。

社会人も学べる教育環境

現職の看護師、保健師、助産師、看護教員等の社会人が仕事を続けながら学修できる教育環境を整備しています。

昼夜開講制を導入

社会人学生の事情を考慮して、昼間に加えて、平日の夜間や土曜日、休日、夏季休暇中の授業及び研究指導を受けることができる教育環境を整備しています。

長期履修制度を導入

長期履修制度を活用すると、2年間の学費で3年間在籍し、計画的に履修することができます。

施設の夜間利用

名桜大学附属図書館は、平日8:45~22:00まで(長期休業期間、講義のない日は17:00まで)、土曜日は12:00~18:00まで開館しています。また、大学院生専用の研究室・共同演習室を整備しています。

修了後の進路

看護学研究科修了後は、次のような進路を想定しています。

- (1) 医療現場における看護実践のスペシャリストとして、看護の質向上を目指した指導的役割を担う。
- (2) 教育・研究者として看護教育機関(看護系大学、看護系専門学校等)への就職、または博士後期課程へ進学する。



教育課程

■ 教育・研究者の養成

科目区分	授業科目名	配当年度	単位数		備考	
			必修	選択		
共通科目	看護理論	1	2		必修科目3科目6単位を履修すること。	
	看護学研究方法論I	1	2			
	看護学研究方法論II	1	2			
	小計(3科目)	-	6	0		
	共通選択科目	沖縄のケアリング文化	1		1	4科目8単位以上履修すること。うち4単位は、国際文化研究科(修士課程)の共通科目及び教育研究領域科目(演習科目除く)並びにスポーツ健康科学研究科(修士課程)の共通科目及び専門科目から履修することができる。
		看護教育学	1		2	
		看護倫理学	1		1	
		看護管理学	1		2	
		コンサルテーション論	1		2	
		ヘルスプロモーション論	1		2	
		包括的健康アセスメント	1		2	
		健康栄養学	1		2	
		病態生理学	1		2	
		臨床薬理学	1		2	
英語講読		1		2		
小計(11科目)	-	0	20			
専門科目	基盤看護学特論I	1		2	基盤看護学分野または臨床看護学分野のいずれかを選択し、特論I及び特論IIの2科目4単位以上履修すること。	
	基盤看護学特論II	1		2		
	小計(2科目)	-	0	4		
	臨床看護学特論I	1		2		
	臨床看護学特論II	1		2		
	小計(2科目)	-	0	4		
演習・研究科目	専門演習	1	4		専門演習4単位、特別研究8単位を履修すること。	
	特別研究	2	8			
	小計(2科目)	-	12	0		
修得単位数合計			30			

■ 修了要件の30単位のうち、共通選択科目の4単位は、国際文化研究科(修士課程)の共通科目及び教育研究領域科目(演習科目除く)並びにスポーツ健康科学研究科(修士課程)の共通科目及び専門科目から履修することができる。

■ 高度実践者の養成

	授業科目	配当年度	単位数		備考	
			必修	選択		
共通科目	看護理論	1後	2		5科目10単位履修すること。	
	看護学研究方法論I	1前	2			
	包括的健康アセスメント	1前	2			
	病態生理学	1後	2			
	臨床薬理学	1後	2			
	小計(5科目)	-	10	0		
	共通選択科目	看護教育学*	1前		2	「看護教育学」「看護管理学」「コンサルテーション論」の3科目6単位から2科目4単位以上履修すること。
		看護管理学*	1後		2	
		コンサルテーション論*	1後		2	
		看護学研究方法論II	1後		2	
		沖縄のケアリング文化	1前		1	
		看護倫理学	1後		1	
		ヘルスプロモーション論	1後		2	
		健康栄養学	1後		2	
英語講読		1前		2		
小計(9科目)		-	0	16		
専門科目	がん病態治療学特論	1前	2		10科目24単位以上履修すること。	
	臨床看護学特論I	1前	2			
	臨床看護学特論II	1後	2			
	緩和ケア特論I	1前	2			
	緩和ケア特論II	1前	2			
	緩和ケア特別演習I	1後	2			
	緩和ケア特別演習II	1後	2			
	がん看護学実習I	2前	2			
	がん看護学実習II	2前	2			
	がん看護学実習III	2前	4			
	がん看護学実習IV	2前	2			
小計(3科目)	-	24	0			
演習・研究科目	課題研究I	1後	2		課題研究I2単位、課題研究II4単位を履修すること。	
	課題研究II	2通	4			
	小計(2科目)	-	6	0		
修得単位数合計			44			

*はCNSコースにおける選択必修科目である。

■ 修了要件の44単位のうち38単位はCNSコースの必修科目である。

■ 国際文化研究科(修士課程)の共通科目及び教育研究領域科目(演習科目除く)並びにスポーツ健康科学研究科(修士課程)の共通科目及び専門科目から履修することができる。

修士論文

	修士論文テーマ	分野
2021年度	精神科入院患者の暴力への対応における看護師の体験 —CVPPPトレーナー資格をもつ看護師への面接調査を通して—	精神看護学領域
	沖縄県へき地医療拠点病院の看護師が関わるオンライン面会の現状と課題 —支援体制に関する質問調査—	がん看護学領域
	専門職における精神障害者の家族の生活を大事にした支援の検討	精神看護学領域
	介護老人福祉施設の看護師と介護士における看取りケアに対する認識の相違とその関連要因	がん看護学領域
2022年度	市町村保健師の職務能力に関する要因 —リフレクションを取り入れた現任教育の検討—	公衆衛生看護学領域
	高齢がん患者の意思決定支援と看護師のエイジズムとの関係	がん看護学領域
	ハンセン病回復者における看護師の意思決定支援の実態	高齢者看護学領域
	沖縄県北部過疎地域における移動制約高齢者の外出支援の現状と課題	高齢者看護学領域
	精神科看護における自己一致を活用した看護実践の様相—専門看護師および認定看護師へのインタビュー調査を通して—	精神看護学領域
2023年度	腫瘍細胞発現サイトカインがアミノ酸トランスポーターLAT1発現に及ぼす影響—抗がん剤曝露によるサイトカイン発現亢進に着目して—	病態生理学領域
	新任期保健師が捉える若年母親への支援の現状と課題	公衆衛生看護学領域
	子育て世代のがんサバイバーの母親とその子どもへの心理的支援のあり方への探求：文献レビュー	がん看護学領域
	血管内皮細胞におけるリポ多糖誘導性Eセレクトリン発現亢進に対するノビレチンの抑制作用	病態生理学領域
	沖縄県の特別養護老人ホームに従事する介護職者の看取りケア態度に関連する要因の検討	高齢者看護学領域
終末期がん患者から攻撃を受けて関わりに苦悩を抱えた一般病棟看護師の体験	がん看護学領域	

基盤看護学分野

看護教育学領域

看護職者一人ひとりのキャリア発達に応じた支援方法を探求

看護教育学とは、看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を研究対象として、看護学生を含む看護職者個人々の発達の支援を通して看護の対象に質の高い看護を提供することを旨とする学問です。看護教育学領域では、生涯にわたり学び続ける、成長し続ける看護職者への支援について研究を行っています。看護をとりまく社会や世界の動向を踏まえながら、看護基礎・継続教育の現状と課題を理解し、看護職者一人ひとりのキャリア発達過程に応じた関わりができる教育研究者の育成を目指しています。ディスカッションを通して、看護の質を高めるための看護職者への教育的な働きかけ、教育環境づくりなど、効果的な基礎・継続教育を実施していくために必要な知識や理論、教育方法について探求します。研究テーマは、成人教育・成人学習に関する研究、看護師のキャリア形成・発達に関する研究などがあります。看護教育に興味のある方、自己教育力を高めたい方、看護職者の学習支援、キャリア発達について一緒に学びませんか。

【担当教員：清水かおり】

国際看護学領域

多文化共生社会における看護職の役割と可能性を追求

国や地域を越えた気候変動・自然環境の変化や災害、貧困、あるいは健康に関する共通課題が、次々と発生するグローバル社会の中で、看護職の役割は拡大しています。また日本で生活する在留外国人は、2023年末に340万人を超えました。パンデミックが収束した現在、インバウンドによって訪日外国人も急増し、多様な文化をもつ人々のニーズを尊重した看護ケアを行える人材が求められています。

国際看護学領域では、そのような状況をふまえ、国内・国外にかかわらず医療・保健・看護の現状を理解し、人々の健康を回復・維持・増進するための看護の課題について検討します。さらに開発途上国の社会背景や文化を踏まえた国際協力活動のありかたについて探求します。そして、多文化共生社会における看護職の役割と可能性について考察し、実践・研究することができる人材の育成を目指します。主な研究テーマは、在日外国人に対する健康サポート、文化と看護、海外研修が看護学生に与える影響についてです。「言語はもちろん大事だけれど、それを超える思いを知った」「私たちにとっての世界の共通言語は『看護』ですね。」そんな感想を話した学生たちの経験の意義、成長についても一緒に考えてみませんか。

【担当教員：横川裕美子】

臨床看護学分野

がん看護学領域

がん看護の質向上に向けた地域のがん医療に貢献する人材育成とエビデンスの開発

現在、がんは日本人の2人に1人が罹り、3人に1人が死亡する身近な病となっています。その一方で、免疫チェックポイント阻害薬やゲノム医療等、日々進歩する高度医療と早期発見・早期治療により5年生存率は60%を超えており、今や「死に至る病」から「がんと共に生きる」時代となりました。それに伴い、がん看護においては包括的な視点と卓越した知識と技能が求められています。

がん看護学領域では、がんの診断時期から終末期までがんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、全人的ケアを実践するための土台となる理論や概念を考究していきます。さらに、地域志向性のあるカリキュラムを配置し、地域のがん医療に貢献できる人材育成を目指します。また、臨床で抱える疑問や課題を最新の研究から探求し、課題解決およびエビデンスの開発に取り組めます。

研究テーマは、がんAYA世代に関する研究や就労支援に関する研究、がん患者・家族の意思決定支援などがん看護領域に関する研究について取り組んでいます。

【担当教員：玉井なおみ、木村安貴】

高齢者看護学領域

文化を踏まえた高齢者看護の発展

少子高齢社会において老年期を生きる人々の豊かで幸せな老いについて評価し実践できることは重要です。高齢者を生活者としてとらえ、高齢者のセルフケア能力やQOLを維持・向上するうえでの研究を文化的視点から取り組んでいます。

これまでの研究テーマとして、住み慣れた地域でその人らしく生活できるように公助、共助、互助、自助の視点とした地域包括ケアシステムの検討、有料老人ホームでの環境配慮要因の検討、高齢者ケアを担う看護職者の道徳的感受性の検討、また、地域で生活する高齢者の閉じこもりの予防、沖縄県の看取り文化、高齢者の意思決定支援、高齢者の会話と睡眠との関連などを多様な経歴をもつ院生及び教員とディスカッションして、研究に結びつけています。今まさに臨床の現場で起こっている高齢者を取り巻く現象に、目を向け、耳を傾け、創造力を駆使して、様々な視点から高齢者の方々とそのご家族の幸せのために、私たちの幸せのために、エビデンスを構築し、質の向上に向けた研究を是非一緒に学びましょう。

【担当教員：永田美和子】

母性看護学領域

母子と女性の健康エキスパートの養成

母性看護学領域では、日本の周産期医療システムの現状を理解し、マタニティ・サイクルにある母性の発達ならびに母子とその家族のwell-beingの実現に向け、次代につながる看護援助方法を探求します。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、女性のライフステージの各段階における健康問題を探求し、その課題解決に向けた研究的アプローチを修得します。講義はゼミ形式で展開し、院生とディスカッションを通して探究すべき課題・課題解決に向けた検討を行い、科学的思考力とエビデンスに基づいた看護実践を探求していきます。主な研究テーマは、生殖医療を受療する対象者の理解と看護実践、周産期および女性の生涯にかかわる健康支援に関する研究、助産ケアのエビデンスに関する研究、産科施設と地域との連携に関する研究、助産学教育に関する研究、臨床における助産ケアの倫理に関する研究などです。

近年の母性を取り巻く環境は大きく変化し続けており、新しい生命観、倫理観の創造が求められています。その変化に合わせてケアを科学的に考え、研究と実践の架け橋になる人材の育成を目指します。

【担当教員：阿部正子】

小児看護学領域

子どもと家族の健康生活を支える看護者の養成

小児看護学領域では、健康な子どもや急性期、慢性期、終末期、障害、在宅療養など健康のあらゆる段階にある子どもたちの最善の利益を基盤に、子どもと家族の健康生活の支援について学びます。また、講義は院生とのディスカッションを中心に、子どもの成長発達過程における母子関係や家族、環境との相互作用が与える影響を理解するため、関連する理論を学びます。そして、さまざまな状況下にある子どもが、その子らしく成長発達するための子どもと家族へのケアの実践や研究方法について探求していきます。

研究テーマとして、障害児とその家族に関する研究、医療的ケアを要する在宅療養児とその家族への支援に関する研究、被災した子どもたちへのケアに関する研究、小児看護学の教育方法に関する研究、プレパレーションに関する研究などがあります。皆さんが抱えている疑問を基に、小児看護に求められる課題解決方法や援助方法について、検討していきたいと思っています。これまで、蓄積してきた研究をさらに発展させたい方、これから小児看護研究に取り組みたい方など、本研究科で新たな一歩をスタートさせてみませんか。

【担当教員：流郷千幸、松下聖子】

精神看護学領域

現場の課題の探究から精神看護学の発展に向けて

精神看護学領域では、院生の皆さんとのディスカッションを通して、根拠のある看護実践を確立していくための科学的思考能力を養いたいと考えます。主な研究テーマとしては、精神障害者及び家族のリハビリに関する研究、精神障害者の地域包括支援に関する研究、看護師や住民のメンタルヘルスに関する研究、看護師の倫理的ジレンマに関する研究、精神障害者への有効なケア技術の探求、精神看護学教育に関する研究などが例として挙げられます。これまでの臨床における経験や実践を整理したい、自分自身の成長のためにチャレンジしたい、研究する能力を高めたい等、それぞれの夢の実現に向けて、私たちと一緒に学びませんか。

【担当教員：平上久美子、村上満子、鬼頭和子】

公衆衛生看護学領域

地域の特性を活かした健康的な地域づくりの創成に向けて

保健師は、「みる・つなぐ・動かす」の技術と知識を活かし、個別支援と保健医療福祉を活かした地域包括ケアシステムが機能する地域づくりと、幅広い保健活動を行う専門職種です。本領域では、院生の興味・関心、経験と先行研究を教材にディスカッションを重ね、保健師や看護師の地域活動の「暗黙知」を紐解きながら、「見える化（形式知）」をし、新たな公衆衛生看護学の知見や地域の課題解決に必要な社会的責任や発見力、洞察力、連携力、統合力、教育力等の修得を目指しております。これまでの研究テーマは、育児期母親のレジリエンスや保健師の専門遂行能力、新任保健師の若年母親の支援、産業看護職に関する研究等です。

本学は、自然豊かで地域伝統行事や「ゆいまーる(相互扶助)」を重んじるソーシャル・キャピタルがある地域に位置しています。このやんばる地域は、少子高齢社会の先駆的モデルとなる貴重な地域であり、この地域の特徴を活かした地域創生に向けた公衆衛生看護学に興味がある方は一緒に学びませんか。お待ちしております。

【担当教員：田場真由美】

在宅看護学領域

その人らしい暮らしを支える在宅看護学の発展を目指して

在宅看護学領域では、在宅での生活（暮らし）を支援する看護の役割と福祉との連携を目指し、在宅看護の現状と課題について探究します。また、沖縄県北部地域のフィールドワークを通して、在宅看護を取り巻く実践上の課題や倫理的判断についてディスカッションを重ねながら実践的に学びます。主な研究テーマは、沖縄の文化とケアリングに関する研究、看取りの文化とエンドオブライフケアに関する研究、島嶼地域における生活支援に関する研究、路上生活者や生活困窮者への健康支援に関する研究、暮らしを支えるケア技術の開発に関する研究、地域の介護力を高めるコミュニティケアやコミュニティナースに関する研究などです。沖縄を拠点に、様々な視点で在宅看護の可能性について一緒に学びましょう！

【担当教員：大城凌子】

病態生理学領域

病態生理を基盤とする看護実践

病態生理学領域では、正常な生体機能が如何に破綻し、異常が生じるかを明らかにするための病気のメカニズムについて研究します。まず、どのような看護援助により身体機能をより正常な状態に戻すことが可能になるかを考え、対策を立て、如何にして実行に移せるかを国内外の文献等を渉猟しながら吟味します。次に、培養細胞等を用いたin vitroでの遺伝子解析、生化学解析やin vivoでの生理機能測定を活用した実験研究により病態の本質を探求します。大学院生自らが臨床で遭遇した興味ある病態を選んで疑問点を解決するために、研究計画を立案し、実験研究を行ない、解析し、考察できるように討論しながら指導していきます。主な研究テーマは、I型アレルギー疾患の病態、がん発生における中心体の役割、抗血栓機能の解明、Ca²⁺チャネルの調節機序の解明、さらに沖縄県北部地域の健康寿命延伸のための課題を明らかにすること等です。細胞レベルから公衆衛生まで幅広い分野について一緒に学びませんか。

【担当教員：花城和彦】

高度実践看護師コース(がん看護専門看護師)

がん看護専門看護師の人材育成

がん医療の高度化、地域包括ケアシステムの推進に伴い、がん看護においては高度な専門的知識と卓越した技術を有した看護師が求められています。なかでも、がん看護専門看護師は、がん看護のスペシャリストとして卓越した実践や相談、調整、教育、研究、倫理調整を行い、がん患者・家族のみならず医療者の支援を行います。

高度実践看護師コース(がん看護専門看護師)では、がん患者・家族が体験する複雑な症状や解決困難な問題に対して、多職種の専門性や活用できるリソースを踏まえた上で、チーム医療を最大限に発揮できるキーパーソンとして活躍できる人材、理論や最新の科学的なエビデンスを看護実践に取り入れ、さらに新たながん看護を探求し、がん看護実践の質を高める人材、施設や地域のがん医療の課題を捉え、ニーズに貢献できる人材の育成を目指しています。

がん看護専門看護師を目指したいけど自信がないや働きながらの履修方法、遠隔授業の活用方法、または、自身が務めている職場のがん看護の質を向上させたいなど、がん看護の質向上を目指している方々の様々な相談を受け付けています。お気軽にご連絡ください。

【担当教員：玉井なおみ、木村安貴(がん看護 CNS)】



「大学院で学ぶ」

大学院で学んでいる
看護学研究科の在学生から
進学を考えているあなたへ

大学院で過ごして感じたこと

臨床看護学分野（がん看護学領域） 2年次
東谷 玲七



私は、課題を解決する力や、周りを巻き込んで問題を解決するために論理的に説明する力を身につけたく、臨床経験をせずに大学院へ進学しました。本学の大学院は長期履修制度もあることや、講義も夜間にあることが多いので、社会人学生も多いですが、専従学生として1年間過ごした私の大学院での生活について述べたいと思います。

大学院生は学内の図書館や、論文取り寄せサービス、論文検索サービスを利用できるため、より効率的に研究を進めることができます。また、学内では研究会が多く開催されており、自分の気になる分野や研究方法について院生同士や教授とディスカッションでき、とても良い環境だと感じています。さらには看護師として働きながら院生をしている方もいるため、幅広い視点で意見交換できることにも日々面白さを感じています。

臨床経験をせずに大学院に進学することは不安もありましたが、物事のとらえ方や思考力が日々成長する自分を実感し、大学院に進学して良かったと感じています。大変なこともあります。仲間と支え合いながら、より良い看護につながる研究を進めていけるように、頑張っていきたいです。

自分自身を磨くことができる場。

臨床看護学分野（がん看護学領域） 2年次
福島 桐子



私は、一昨年まで名桜大学看護学部在籍しており、卒業後にそのまま大学院へ進学することを決めました。大学院進学を決めた理由は、看護研究について学ぶだけでなく、自分自身の思考力や物事を伝える力をさらに鍛えていきたいと考えたためです。大学院での1年を振り返ると、研究テーマの設定や研究計画書を作成する際に、何度もディスカッション重ね、物事を探究する力やクリティカルに捉える視点を培うことができたと考えています。先生方や他の院生とのディスカッションを通して、日々様々な刺激もいただいています。

また、臨床経験がないことに不安を感じていましたが、今では実際の臨床がどのようになっているのか、これまで獲得した知識を臨床でどのように生かせるのか、ということを考え、臨床に出ることが日々楽しみになっています。臨床でどのように働いていきたいのか、というビジョンを持つことができたのも、大学院での成長だと感じています。

看護研究を行うことや知識の獲得だけでなく、様々な経験をを通して自分自身磨くことができる場が大学院であると考えています。興味のある方はともに学んでみませんか？

諦めない力を鍛える場

臨床看護学分野（がん看護学領域） 2年次
宮良香帆



将来、離島が抱えるがん医療における解決困難な課題に向き合える人材になり、離島医療に貢献したいと考えています。しかし、学部の卒業研究を通して情報を探索する力、論理的に他者に伝える力、批判的に物事を捉え本質に近づく力が不足していることを痛感しました。その経験から、なりたい看護師像に一步近づくために名桜大学の看護学部卒業後ストレートで大学院へ進学し、力を身につけ、臨床現場に行くことを決断しました。大学院では、多くの事柄について教員・先輩・同期とディスカッションを通して学びを深めています。日々の対話の中で特に「臨床の難しい問題に諦めないで取り組んでほしい」という教員の言葉が印象に残っています。私は今、離島の目が向けられていない医療問題を顕在化させるため苦戦しています。研究がされていない分野を探求することは難しく、逃げそうになることもあります。潜在的な問題が顕在化し、解決方法を導いた達成感を楽しみに諦めず取り組んでいます。大学院は、解決困難な問題に立ち向かう力を鍛える場だと感じています。学部から進学を考えている方、ぜひお話を聞きに来てください。一緒に悩み、探求する楽しさを分かち合いましょう！

働きながら学べる環境

臨床看護学分野（病態生理学領域） 1年次
松川 官可



私は現在うるま市役所で保健師として働きながら大学院に通っています。

大学院では「肥満による皮膚脆弱化のメカニズム」をテーマに研究を行っています。この研究テーマは、肥満の方への減量支援を行う中で感じた「肥満の方は皮膚トラブルに悩まされていることが多い」という経験から着想を得ました。肥満による皮膚脆弱化のメカニズムを解明できれば、病態に基づいたケアの提供や減量に向けた行動変容を促す際の根拠資料に活用出来るのではないかと考えております。

名桜大学では長期履修制度や夜間・土日での講義、オンライン受講など働きながらでも学びやすい環境が整えられています。そのお陰で現場経験を積みながら大学院で学ぶことができ、その環境をありがたく感じています。加えて、私は妻や子ども達を始め、多くの方々のサポートのお陰で大学院に進学できました。そのことへの感謝を忘れず、大学院生としての日々を充実させられるように過ごしてまいります。



定年が近い私が大学院を目指した理由

臨床看護学分野（がん看護学領域） 1年次
安次富直美



私は看護師として働いて今年29年目になります。定年が秒読みとなったこの時期に大学院生となり、講義が始まって2ヶ月が経過しました。仕事と講義、この2つを両立させることに現在、四苦八苦しているのが現状です。

私が大学院を目指した理由は現在働いている職場の環境にあります。病棟経験をj得て、現在は緩和ケアセンターで働いています。スタッフはがん看護専門看護師2名、緩和ケア専門看護師1名が在職中です。これまで私は看護師としての経験や知識から患者や家族とコミュニケーションを図っていました。しかし、がん患者や家族のつらさや思い、気持ちをj確認し寄り添いながら精神的、スピリチュアルな面を引き出す知識や技術が私には備わっていないと専門看護師や認定看護師の患者への対応をjみて強く感じました。例えば、患者や家族の発した言葉について確認したり、質問をしながら思いを引き出したり、コミュニケーションスキルが長けていると働いていて実感します。

患者やその家族がお互い悔いのない人生を過ごすことができるよう援助することは大切で、そのためにはがん看護に関する幅広い知識や技術を深めることが必要だと考えました。

大学院で学ぶこと

臨床看護学分野（精神看護学領域） 2年次
中西 康二



現在、長期履修制度を活用しながら大学院に通っており、入学して今年で3年目となりました。

私は、「アルコール依存症者の専門病棟における入院体験」をテーマに研究に取り組んでいます。これは、私自身が実際の臨床で感じた「アルコール依存症者にとって入院することによどのような意味があるのか」という疑問から派生した研究テーマとなります。このテーマに至るまでには、指導教員とも何度もディスカッションを重ねながら右往左往し、時には躓きながらも納得して決めることが研究テーマとなり、今では感慨深いものがあります。現在は、断酒会に参加させていただきながら研究参加者を募っている段階です。

正直にjえば、仕事、家族、研究と三足の草鞋を履きながら、大変であり目まぐるしい日々を送っており、きつさを感じることはあります。しかし、このような日々を送ることができるのも周りの人達の支えのおかげであることをj忘れずに感謝することで一歩ずつ前に進むことができます。この気持ちを常に持ちながら、最後まで大学院生活を全うしていきたいと思jいます。

他者と関わりながら自己の学びを深める

臨床看護学分野（高齢者看護学領域） 1年次
川平裕佳



私は看護学科を2020年に卒業し、4年の病院勤務を経て、母校の名桜大学に戻ってきました。今は教育支援員として働きつつ、大学院に通っています。日中は学部生の講義に参加し、夕方は大学院の講義を受講する…。この生活が始まってまだ1ヶ月ほどですが、なかなか忙しい日々を送っています。しかし、兼ねてから自分が学びたい、やってみたくjと考えていたことの連続なので、楽しみながら取り組んでいます。学部と大学院との違いは、ディスカッションとプレゼンテーションの多さです。特に臨床看護学特論Iでは、提示されたテーマについて調べたこと・その考察に関するプレゼンテーション、それらを踏まえた上でディスカッションテーマを設定して毎回の講義に臨みます。ディスカッションを通して触れる他者、つまり仲間である院生や指導教員の考えは自分の考えをさらに深めてくれます。また、学部生時代に学んだ参画型看護教育の「自己との対話」「他者との対話」が大学院での学びに厚みをもたせていることを日々実感しています。「自己との対話」「他者との対話」の学びを経験したい方、自分の興味関心のある分野をとことん探求してみたい方、ぜひ大学院への入学を検討してみてください。ともに学び合える仲間が増えることを楽しみにしております。

研究することを支えてくれる環境

臨床看護学分野（在宅看護学領域） 2年次
金子有希



大学院で学び始めて3年になりました。一緒に研究を始めた同期が修了していくなか、自身の課題はまだ多く、試行錯誤しながら取り組んでいます。このような状況で、指導教員の先生には根気強く指導をいただき感謝しかありません。しかし、遅々として進んでいる中でも、質的研究の面白さ、難しさも感じ、貴重な機会・時間を得ていると感じています。私の研究テーマは沖繩戦と看護です。インタビューを実施しながら、人が生きること、人に向き合うことの深さを改めて考えさせられている日々です。

また、研究を始めたからこそ、これまでの臨床経験、看護以外の経験を振り返り、自身の看護の専門性を見つめ直す時間にもなっています。専門性を見つめ直し、研究をどのように還元していけるのか、今後のキャリアを考える機会にもなりました。

探究すること、論文を書き上げることは自身で乗り越えなくてはなりませんが、チャレンジすること、研究することを支えてくれる環境がここにはあります。始めようとするごとに、遅いということはないと思jいます。ここ名桜大学大学院看護学研究科で、新たな一歩を踏み出してみませんか。

大学院で学ぶ Q & A よくある質問にお答えします!

Q 令和7(2025)年度の入学者選抜(入試)はどのように実施されますか?

A 令和7(2025)年度の入学者選抜は、筆記試験(英語、共通科目、専門科目)、面接の各試験を試験会場(対面式)で実施します。入試日程と概要を冊子裏面で確認してください。また、入試の詳細については、学生募集要項(7月上旬発行)を確認してください。

Q 専門学校卒業ですが、大学院に進学できますか?

A 進学することは可能です。入学された皆さんの多くが、専門学校卒業の方々です。手続きとしては、出願する前に、出願資格審査を受けていただくことで受験が可能となります。詳しくは名桜大学HPもしくは入試・広報課(TEL.0980-51-1056)にお問い合わせください。

Q 大学院へ進学したいのですが?

A 受験を希望する方は、指導を希望する教員又は研究科長に必ず事前にご相談ください。新しく設置されたCNSコースへ進学を希望される場合も同様にご相談ください。10月試験が10月上旬、2月試験は翌年の2月上旬にあります。受験の3~4カ月前くらいから相談をしていただき、必要な書類は受験の1~2カ月前くらいまでに手元に用意しておくことと余裕をもって受験ができると思います。希望される方は、随時相談ができますので、各教員もしくは入試・広報課(TEL.0980-51-1056)にご連絡ください。

Q 事前の指導教員との相談を受けるには、どうしたらよいのでしょうか?

A 募集要項に指導教員情報を掲載していますので、直接連絡をしていただいてもかまいません。もし、教員が不在の場合には、メールをしていただくか、入試・広報課(TEL. 0980-51-1056)にお問い合わせください。

Q まだ研究テーマがはっきりしていないので、どの先生に相談してよいのか、わかりません。

A どの領域や研究テーマがよいのか定まらない場合にも、遠慮なくご相談ください。大学のオープンキャンパスでご相談いただけます。

Q オープンキャンパスはいつですか?

A 令和6(2024)年度は、6月8日(土)*、8月10日(土)*の開催を予定しています。スケジュールなどは名桜大学HPでご確認ください。入試・広報課(TEL.0980-51-1056)にお問い合わせください。当日は研究科担当の教員による進学相談コーナーを設けています。

*キャンパス内(対面式)で開催します。HPで詳細の確認・事前申込を行ってください。

Q 仕事を辞めることができません。大学院では、働きながら学ぶことができますか?

A 働きながら学ぶことができます。本大学院では大学院設置基準第14条の「教育方法の特例」を適用し、昼間だけでなく夜間にも講義、演習などを開講しています。夜間の講義は18時15分からなので仕事を終えてから受講することができます。また、長期履修制度を利用することもできます。

Q 長期履修制度とはどのような制度ですか?

A 長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限(博士前期課程:2年間)では修了が困難である方が、本来の履修期間を超えて3年間に在学できる制度です(標準修業年限を超える授業料の支払いはありません)。但し、入学手続きまたは入学後1年以内に申し出る必要があります。長期履修が認められた場合、標準修業年限を超える分の授業料の増額はありませぬ。

Q 大学院に入学前に準備しておくといふことは何でしょうか?

A 在職しながら大学院で学ぶためには、職場の理解や協力が必要になります。看護研究方法について基礎的知識をもっていること、英語文献を読むことに少しずつ慣れておくといふと思います。

Q 入学願書の出願手続きはどのようになっていますか?

A 学生募集要項をご確認ください。また、入試・広報課へお問い合わせください。



Q 英語が苦手です。入学試験の対策はどのようにしたらよいのでしょうか?

A 基礎的な読解力をみるための問題になっていますので、高校の英語のテキストから慣れていくといふと思います。慣れてきたら、新聞の記事や看護系の論文と文章量を増やし、継続して読んでいくといふと思います。

Q 入試過去問題を見ることはできますか?

A 過去に実施した入試問題は、名桜大学入試・広報課窓口および名桜大学HPでも閲覧できます。



学費等納入金

看護学研究科			看護学専攻	
			地域内	地域外
学 費	入 学 金		125,000円	250,000円
	授 業 料	前 期	267,900円	267,900円
後 期		267,900円	267,900円	
諸 経 費	後援会費	入 学 手 続 時	20,000円	20,000円
	学生教育研究・災害傷害保険	入 学 手 続 時	1,750円	1,750円
	学研災付帯賠償責任保険	入 学 手 続 時	1,000円	1,000円
合 計		初年度納入総額	683,550円	808,550円
初年度納入総額内訳		入学手続時納入金	415,650円	540,650円
		後学期納入金	267,900円	267,900円

※諸経費は、入学手続時に2年間分を納入します。 ※総合補償制度「WIIJ」(保険)については、希望者のみ必要に応じ随時加入できます。

地域内・地域外の入学金について

入学金については、志願票に記載されている事項に基づき、以下のとおり取り扱うことになります。

(1) 地域内に該当する者とは次のいずれかに該当するものをいう。

- ①入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄本島北部12市町村に所在していること。
- ②入学する者の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、令和6(2024)年3月31日以前から1年以上継続して在住していること。*
- ③入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、令和6(2024)年3月31日以前から1年以上継続して在住していること。*

※令和6(2024)年3月31日時点で1年以上の継続在住期間があることを指しています。

＜沖縄本島北部12市町村とは＞

沖縄県の「名護市」、「国頭村」、「大宜味村」、「東村」、「今帰仁村」、「本部町」、「恩納村」、「宜野座村」、「金武町」、「伊江村」、「伊平屋村」、「伊是名村」のことを指します。

(2) 上記①～③以外の者は「地域外」となり、入学金が「250,000円」となります。

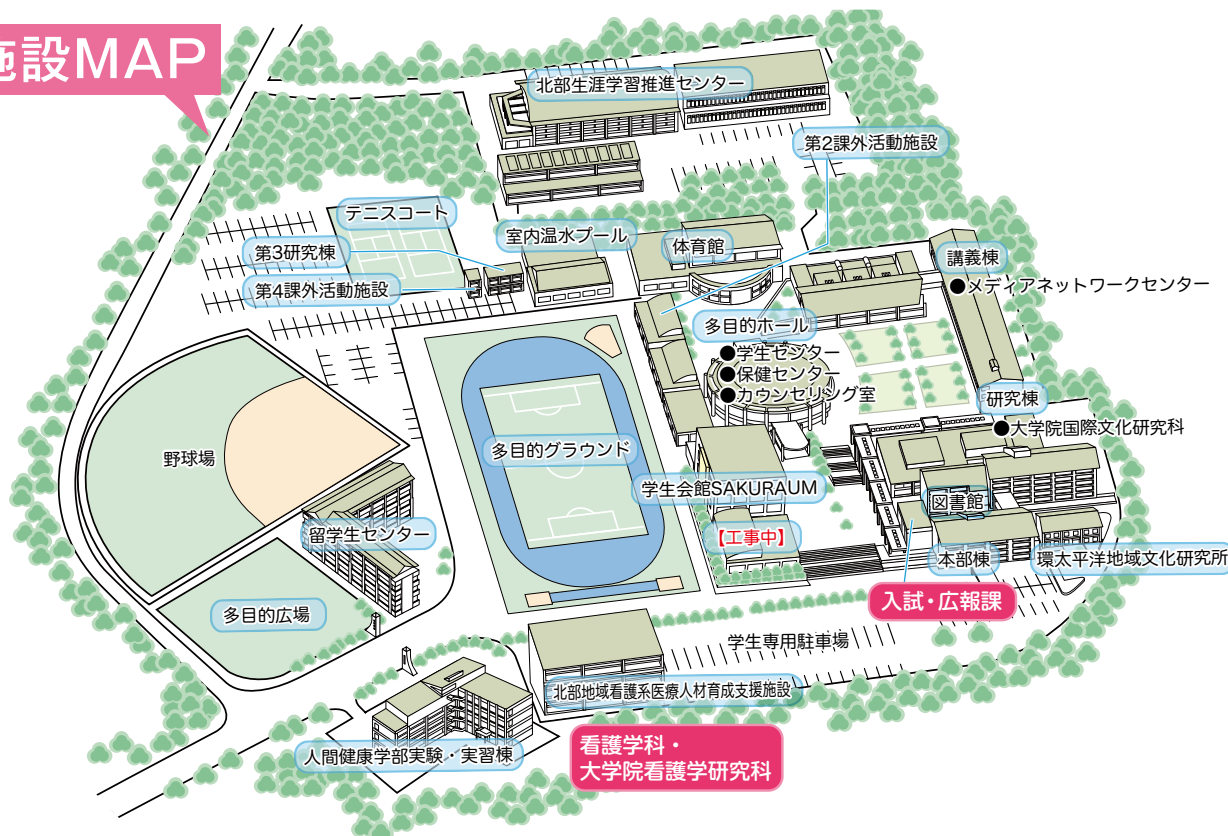
(3) 本学卒業生については、入学金は「地域内」の半額「62,500円」となります。

入学後の奨学金制度その他について

経済的な負担軽減を図るため、大学院奨学金制度があります。

また、看護学研究科の全大学院生への研究支援として、書籍や消耗品、学会発表に要する旅費交通費について研究支援補助金が支給されます。

施設MAP



令和7(2025)年度 大学院看護学研究科入学者選抜概要

■選抜区分：一般選抜、社会人選抜

■出願資格 次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第83条(昭和22年法律第26号)に定める大学を卒業した者又は卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者又は令和7(2025)年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7(2025)年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7(2025)年3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育法における16年の課程を修了したとされる者に限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和7(2025)年3月までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7(2025)年3月31日までに22歳に達する者

令和7(2025)年度 看護学研究科(博士前期課程) 入学者選抜日程

■10月試験〔令和7(2025)年4月入学〕 選抜区分：一般選抜、社会人選抜

出願前相談期間	願書受付期間
令和6(2024)年9月6日(金)まで随時	令和6(2024)年9月9日(月)～9月13日(金) (消印有効)
試験日	試験会場
令和6(2024)年10月12日(土) ※台風等による予備日 令和6(2024)年10月19日(土) ※追試験 令和6(2024)年10月26日(土)	■本学試験場：名桜大学
合格発表	入学手続期間
学生募集要項を確認してください。	学生募集要項を確認してください。

※10月試験で定員に満たない場合には、下記の日程で2月試験を実施します。実施については、名桜大学ウェブサイトを確認してください。

■2月試験〔令和7(2025)年4月入学〕 選抜区分：一般選抜、社会人選抜

出願前相談期間	願書受付期間
令和7(2025)年1月10日(金)まで随時	令和7(2025)年1月14日(火)～1月17日(金) (消印有効)
試験日	試験会場
令和7(2025)年2月1日(土) ※追試験 令和7(2025)年2月15日(土)	■本学試験場：名桜大学
合格発表	入学手続期間
学生募集要項を確認してください。	学生募集要項を確認してください。

出願資格認定申請期間

■出願資格認定手続き

出願資格(9)、(10)に該当する出願希望者は、出願資格の事前審査を行い、出願資格認定を受ける必要があります。出願資格(10)は、大学を卒業していない者(看護系短期大学、専修学校、各種学校等を卒業・修了し実務経験が3年以上に該当する者)が該当します。

■10月試験

出願資格認定申請期間	令和6(2024)年8月5日(月)～8月16日(金) (必着)
出願資格認定結果	令和6(2024)年8月23日(金)

■2月試験

出願資格認定申請期間	令和6(2024)年11月25日(月)～12月6日(金) (必着)
出願資格認定結果	令和6(2024)年12月20日(金)

■選抜方法

入学者選抜は、一般選抜及び社会人選抜として、学力試験(英語、共通科目、専門科目)、面接及び出願書類(志望理由と研究への抱負、業績報告書〔社会人選抜のみ〕)の内容を総合的に判定して行います。

試験科目等	備考
英語	保健医療、福祉の分野の内容で準2級程度の内容(大学で用意する辞書のみ使用してよい)
共通科目	看護学全般の基礎知識を問う内容
専門科目	専門領域の基礎的知識を問う内容(志願する領域を選択する)
面接	基礎的な研究遂行能力を問う内容
書類審査	研究・教育・社会貢献活動の業績を審査する

検定料:30,000円

※書類審査は、社会人特別選抜のみとなります。(詳細は学生募集要項をご確認ください。)

名護市内アクセスマップ

公立大学法人

名桜大学

MEIO UNIVERSITY

教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1

TEL.0980-51-1056 FAX.0980-54-2429

E-mail nyushisodan@meio-u.ac.jp <https://www.meio-u.ac.jp/>